



こども図書室(イメージ)



## 図書館が無かった「文教菊池」

古来から文教地区として名高い菊池ですが、近年は市の中心部に図書館がありませんでした。完成を待ち望んだ図書館に期待する役割とは――

**新たな文化の拠点 未来を担う人材育成を**

「生涯学習センターが『文教菊池』の新たな象徴になってほしい。公民館と同じ建物という利点を生かし、菊池の文化の拠点として根付いてくれれば」。開館を前にして、菊池市立図書館の安永秀樹館長は期待を込めて話します。

菊池一族の統治期に学問が芽生え、江戸時代には学びが庶民に普及した菊池は、学問の先進地とされたことから文教菊池と称されています。

熊本県で初の図書館は菊池で開館しました。明治20年に山鹿・山本・合志・菊池郡長の上羽勝衛が「菊池書籍館」を現在の菊池高校の場所に開設。県立図書館の開館より9年も前のことでした。ところが、勝衛が郡長を辞任したことに加え、利用者が少なかったため、わずか8年で閉館に。その後大正4年に復活し、教育団が大正14年に経営を引き継いだ「菊池図書館」は、昭和20年に建坪数や蔵書数で県立図書館に次ぐ規模を誇ったものの、昭和41年に閉館し



菊池市立図書館 安永秀樹 館長

ています。

旧泗水町には泗水図書館が開館していましたが、近年の旧菊池市には中央公民館に併設された図書室があるだけでした。図書館を利用するため泗水や近隣の自治体まで足を運ぶ菊池地区の市民も多く、学習場所を求めてファミリーレストランで勉強をする学生も。「図書館を利用する文化が無いので、本にふれあう機会も減る。これはまちとして大きな損失だったと思います」と安永館長は説明します。

「中央図書館で学問の楽しさを知った子どもたちが成長し、将来は菊池や国の未来を支える人材になってくれたらうれしいですね」。かつて多くの優れた人材を輩出した文教菊池の再来を――。11月25日(土)の開館に向け、準備は着々と進んでいます。

# みんなの思いが集う場所

図書館と公民館が一体となった複合施設の生涯学習センターが、11月25日(土)に開館します。菊池地区に図書館が復活するのは実に51年ぶりのことです。どんな図書館が誕生するのでしょうか。図書館で働く人。開館を心待ちにしている人。市民目線の図書館にしようと行動した人――。それぞれの思いを聞きました。

【問い合わせ先】  
菊池市中央図書館  
☎0968(25)1111



泗水図書館で絵本の読み聞かせをする木下彰さんと長女の世莉ちゃん(今区)





現在、会員数は約70人。より良い菊池の図書館を願ひ、定期的に意見を交換している

生涯学習センターの案が発表された平成25年。「菊池の図書館を考える市民の会」を発足し、より良い図書館にしようとする市民の声を丁寧に拾い上げ、行政に伝えてきました。当初は生涯学習センターの2階に計画されていた図書館に対し「図書館は利用者が主役。お年寄りや子どもが利用することを考えたら、1階にない」と議会に要望を提出。意見は実を結び、現在の図書館計画につながりました。

会は今年から「菊池市図書館友の会」と名を変え、今後は市民目線で図書館の運営を手助けしていく予定です。「菊池にとって念願の図書館。これからも市民の意見や要望を反映できるように、活動を続けていきます。図書館が知や文化の拠点として、公民館と併せて生涯学習の場になってほしい。自然に人材が育つ菊池になれば」と期待を込めました。

## 市民目線の要望が実り、図書館が1階に

図書館を考える市民



菊池市図書館友の会  
坂本敏正さん  
(堀切)

自身は小学校高学年の頃から図書館通いをする少年でした。「当時の図書館は現在の教育会館の場所にあつてね。知らない単語を辞書で調べていくのが楽しくて」と思い出を振り返ります。



1\_収容能力6万冊を超える閉架書庫の整理 2\_古文書を調査研究する専門機関も 3\_寄贈本などは司書自らバーコードやフィルムを貼り装備する 4\_開館に向けミーティングを重ねる

## 「図書館は市民みんなの本棚」

地域に親しまれる図書館にするために大切なことはなんでしょうか。図書館運営に長年携わってきた福吉副館長に話を聞きました。

### 市民に愛される図書館に

「図書館という場所を楽しんでほしい。本をきっかけに、いろんな出会いが生まれてほしいですね」。平成9年の泗水図書館の開館とともに働き始め、平成19年から28年は館長に。中央図書館では現場を熟知した副館長としてスタッフを牽引しています。目指すは、市民と距離が近い施設。「図書館は垣根がない場所。赤ちゃんからお年寄りまで平等に利用できる、言わば地域の拠点です。日ごろから気軽に利用してもらい、図書館が日常生活の一部になれば」と話します。

### 地域交流の拠点を目指す

市内に15校ある小中学校の図書室は図書館とシステムを統一。開館に合わせ、借りた本を記録できる図書館通帳を全校児童に配布します。「子どもたちは学校の図書室で借りた本も図書館で記録できます。読書のアルバムを作るように、楽しみながら記録を残してもらえたらいいですね」

市内4館でお互いに資料の取り寄せも可能に。「図書館資料を共有することで、地域格差も無くなります。図書館を市民の本棚として、積極的に利用してもらいたい」と呼びかけます。

独立した空間を持つ子ども図書室は県北で初。靴を脱いだり、寝転がりながら本を読んだり、親子でおしゃべりしたりしながらの利用も大歓迎です。「交流の場として利用してもらい、地域の子が育つ場になれば」と願いを込めます。

## 市民が主役の図書館へ

新しくできる図書館に市民の思いを届ける人たちがいます。



## これからもずっとお話を届けたい

おはなしボランティア

「会場がざわついても、読み始めると子どもの目が輝くんです」。図書館や公民館などで読み聞かせのボランティアを続けて20年以上。お話の世界の案内役として、聞き手を魅了しています。

読み聞かせグループ「きくちおはなしのもり」の代表のほか、紙芝居やわらべ歌を披露する「妻籠座」でも活動。交流がある岩手県遠野市や宮崎県西米良村で読み聞かせを上演するなど、精力的に活動しています。「私たちの活動で、子どもたちが本の魅力を知ってくれたらうれしいです。自分も楽しいし元気になる。生きがいですね」



小学校での読み聞かせ。児童に本の楽しさを伝え続けている

口頭で伝えられていた菊池の昔話を高齢者から聞き取り、オリジナルの紙芝居を作って披露しています。「いま記録しておかないと、地域の話は後世に残らず途絶えてしまう。若い人に伝えたい思いで記録しました」と振り返ります。

中央図書館には、読み聞かせができる「おはなしのへや」が完成。こども図書室には、たくさんさんの絵本が並びます。「親子で遊びに来て、本を手にとって選ぶ楽しさを知ってほしいですね。私たちも新たな場所で披露するのが楽しみです。図書館が家族のおかけの場所になるよう、これからもお話を届けていきたいです」



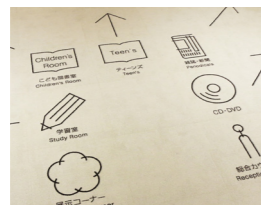
きくちおはなしのもり  
原保奈美さん  
(日生野)

菊池市立図書館  
福吉里加子副館長

泗水図書館の開館時から働き、平成19年からは館長に。自ら絵本を創作することも。







## 渓谷と白龍をイメージ

菊池の象徴である菊池渓谷に、白龍や水が舞うようなイメージでデザインしました。人と人のコミュニケーションの場になるよう願っています。「この図書館があるから菊池にいたい」と市民に思われる存在になればうれしいです。



株式会社乃村工藝社  
チーフデザイナー  
なかむら かずのぶ  
中村和延さん(東京)

## 生涯学習センター オープニングイベント開催!

11月25日(土) 午前10時～午後5時 26日(日) 午前9時～午後5時

- 【おやじのおはなし会】 25日(土) 午後1時30分～2時
- 【おはなしのもり】 26日(日) 午後1時30分～2時
- 【英語でおはなし会】 26日(日) 午後3時～3時30分

中央図書館でも図書館ツアーやおはなし会などを開催します。詳しくは市ホームページか別刷りのチラシをご覧ください。

## 生涯学習の新たな拠点に

長らく図書館に恵まれなかった菊池地区。しかし経験豊かなスタッフ、市民目線の図書館を願うボランティア、本の楽しさを伝える続けるボランティア、そして遠くの図書館へ通い続けた多くの市民と、文教菊池の精神は脈々と受け継がれていたと言えるでしょう。生涯学習センターの木村利昭センター長は「図書館も公民館も、積極的に活用し、生涯学習のフロンティア(最前線)を目指してほしい」と願いを込めています。また、中央公民館の山本美千代館長は「公民館で学んだ講座を1階の図書館でさらに深く学べる。やがて教える立場になれば、知識のサイクルになる」と話します。図書館と公民館による人づくりの循環——文教菊池の新たな拠点として役割を担う生涯学習センターは、多くの人の期待を乗せて歩み始めようとしています。



## 一家8人、みんな本が大好き!

図書館大好き家族

図書館が大好きな末田さん一家(下木庭)。家族8人で年間約千冊を借りています。母親の三紀子さんは「車で泗水図書館に通っているけれど、ちょっと遠いのが悩みです。近所に図書館が完成するのが待ち遠しい」と期待をふくらませます。

車で通える距離に図書館ができる、いつでも好きなときに往けるので「楽しみ」と目を輝かせます。いつも8人全員で本を借りに行く一家は、泗水図書館でも有名人。スタッフや利用者の皆さんから、よく声をかけられるそうです。中学2年の長男、大朗さんは、泗水図書館の企画で趣味の手工品を披露したこともあります。「子どもたちがとても喜んでくれました。大好きな図書館に貢献できた」とにっこり笑いました。



後列左から正弘さん、大朗さん、愛乃さん、三紀子さん。前列左から風和ちゃん、慈くん、光くん、栄一くん

## ワクワクがいっぱいの図書館

図書館のオープンを心待ちにしている人たちに話を聞きました。



## 本でおもてなし

本が並ぶ飲食店

夫婦で図書館を利用している前田夫妻(片角)。2人とも読書が趣味で、現在は週に1回のペースで泗水図書館に通っています。経営する限府の飲食店「クロスロード」の本棚には自身が所有する本が並び、来店者を楽しませています。

「中央図書館は自宅から近いので通う回数が増えそう。気軽に読書を楽しめる場所が菊池にできるのは、とても良いこと」と幸二さん。妻の照子さんは「図書館には書店であり見かけない本があるのでワクワクします。開館が楽しみです」と期待を寄せました。



前田幸二さん(左)、照子さん夫妻。2人とも本や音楽が大好き

## 曲線を利用した大胆な本棚 学びの拠点として期待

中央図書館のデザインは、大胆な曲線を使用した本棚の案が採用されました。子ども図書室から始まる本棚「ブックリバー」は、蛇行しながら徐々に高くなるデザイン。水の流れが本と人をつなぐ意味も込められています。ブックリバーにはトンネルがあり、そこをくぐると新しいエリアが現れる仕掛けになっています。段差が付いた本棚は、知識の階段を登るイメージを表しています。

完成予想図を見た市民からは「館内を探索してみたい」「面白そうでワクワクする」「こんなデザインの図書館は見たことがない」などの意見が寄せられました。

館内には古文書閲覧室や学習室のほか、文教菊池の歴史を展示するコーナーも設置。菊池の学びの拠点として大いに期待されています。また、レコードやCD、DVDの視聴やインターネットを閲覧できるコーナーを設置。時代のニーズに合わせた図書館になるよう、さまざまな工夫をしています。